

芋焼酎「水俣あかり」

これが

旬

水俣あかり 1本930円。箱代は1本入り150円、2本入り210円。送料は九州内740円。問い合わせは愛林館☎0966(69)0485(ファクス兼用)。

訪れた人は皆、その幻想的な光景に息をのむのだが、今春、そんな光景をイメージする酒が誕生した。芋焼酎「水俣あかり」である☞写真下。

「このじの米は久木野ん棚田米にしよう」

話ほとんど拍子で進展。20坪の畑でとれた芋(コガネセングァンと酒米(レイホウ)を黒ごうじて仕込み「日本の環境首都」の称号を獲得した地らしく、再利用可能な「リターンナル瓶」に詰めた焼酎が2本本(4合)できた。

日本の棚田百選「寒川の棚田」を有する熊本県水俣市久木野地区。今年も田植え前の5月18日、水を張った田のあぜに竹でこしらえた約2千本のたいまつを立てる「棚田の交わされた会話」だった。

きっかけは「久木野ふるさとセンター・愛林館」館長で「自由飲酒党総裁」を名乗る沢畑亨さんが代表の「環境にやさしい暮らし円卓会議」で交わされた会話だった。

と、芋の風味が鼻腔をくすぐり、その余韻を残しながら喉へと落ちていく。すっきりした飲みやすさが特徴だ。

先祖が切り開いた棚田という財産に感謝し、次世代につながる。何はともあれ、その向こう側に人の営みが見えるものには愛がある。てなことを考えるうちに心地よい酔いが回ってきた。

口を含む

思いを次につなぐ酒

「あかり」が開かれる☞写真上。水面にゆらめく柔らかな炎。



「使うとらん休耕地は活用したかね」

「カライモ栽培ならどげんかなるはい」

「売るには加工せんばね」

「焼酎が良かばい。阿久根に良か蔵のあるばい」



「焼酎が良かばい。阿久根に良か蔵のあるばい」

(佐藤弘)